



学びの ページ

「孝」

回は「五常」における「孝」について学んでいきます。

そもそも孝といふ漢字は、「老いた人を「子」が背負う姿を表したもので、「親思い」「孝行」などの意味があります。解説会では、親や先祖を尊敬し、そのお蔭に感謝する心が「孝」であると教えていました。簡単に言えば、親の恩に報いること、親孝行をすることです。

一田弓の「父母の御恩」でも学びましたが、私たちがこの世に生まれることができたのは両親がいたお蔭です。生まれてからこれまで親が子供のために当たり前にしてくれたことは、数限りなくあります。その一つひとつに目を向け、親の恩を知りうることは「孝」の第一歩です。

さて、皆さんは親孝行というと、どんなことをイメージしますか？もちろん誕生日にプレゼントを贈ったり、家事をお手伝いしたりと、想いを込めて親のために何かをすることは、親孝行の一つです。でも、本当に親が喜んでくれることはないでしょうか？

たとえば、テストで良い点を取った時や、部活の試合であなたが活躍した時に、お父さんやお母さんが自分のことのように喜んでくれた経験はありませんか？また、子供が悲しい思いをした時には、その痛みをわが事のように感じて心配してくれるのは親です。そこには、「子供に幸せになってもらいたい」という大きく深い親の愛と願いがあるのです。

つまり、あなたが毎日をイキイキと過ごしていること 자체が親孝行なのです。反対に、あなただが「自分なんてどうなつたっていい」と投げやりになつて、自分自身を大切にしない行動をとれば、それは親不孝となつてしまします。

最後に、金剛さまが説かれた最高の親孝行をご紹介します。それは「親の欠点をよく知つて、それを責めずに繰り返さないと」です。親子とは不思議なもので、「親のこんなところが嫌い！」と感じる時は大抵、子供も同じ癖を持っています。わが家の悪い伝統を親が気づかせてくれたのだと感謝して、自分は真似ずに切り替えていくことは、何にも勝る親孝行となります。

常に親の恩を忘れず、今の自分でできる親孝行を考え、実践していきましょう。

◎ 今日からできる「孝」の実践について、みんなで話し合つてみよう。